セルフジャッジの要点

※2018 年改正

[1] スコアのアナウンス

サーバーがサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でする。

[2] ジャッジのコール

ジャッジとコールは相手にわかるよう、大きな声とハンドシグナルで速やかに行う。

※ボールを見失った場合は、グッド（イン）。

※このようなアウト、フォールトは無効。

・自分が返球し、その球がアウト、ネットしてからのコール

・相手が返球してからのコール

[3] ジャッジの権利

アウト、フォールト、グッド（イン）は自分側のコートについてのみ判定する。

ネット、スルー、タッチ、ノットアップ、ファウルショット、自分側と相手側のコートについて判定する。

※タッチとは、身体やラケットがボールやネットにふれたり、持ち物を自分のコートに落とした場合。

※ノットアップとは、2 バウンド以上のボールを打つこと。

※ファウルショットとは、故意の二度打ちやオーバーネット。

フットフォールトの判定は、コート内のレフェリー、ロービングンンパイアに限る。

ダブルスでは、チームのどちらがジャッジとコールをしてもよい。

[4] ミスジャッジ

自ら訂正したりオーバールールされたら 1 回目はレットで、2 回目以降は失点となる。

わざとミスジャッジしているとレフリーが確信したら、コード違反を科す場合がある。

※コード違反は、1 回目は警告、2 回目は失点、3 回目以降は失ゲーム。

ダブルスのチームでジャッジが食い違うと、ケースに応じて処理する。

①アウト、フォールトの場合は、失点

②サーブのレット（グッド、イン）の場合は、レット。

③一方が無言だけなら、食い違ったことにはならない。

[5】他のコートからの妨害

レットとコールしてプレーを停止し、ケースに応じて処理する。

①正しくコートに入らなかったら、そのボールを打ったプレイヤーの失点。

②明らかなウイナーやエースは、そのボールを打ったプレイヤーの得点。

③明らかなウイナーやエース以外は、ポイントのやり直し。
④レットのコールの後に打たれたボールは、ポイントのやり直し。

[6] 相手の妨害

レットとコールしてプレーを停止し、ケースに応じて次のように処理する。

①故意なものは失点とする。
②故意でないものは1回目はポイントのやり直し、2回目以降は失点。
③ラケット以外の着衣・持ち物を落とした場合。但し、振動止めを落としたり、シューズが脱げた場合を除く。
④プレーゾーン内の自分のボールを、誤って蹴飛ばした場合。
⑤ラケットでのボールの除去は故意の行為であるが、2回目以降失点とする。
⑥サーブを邪魔する必要以上の前衛の動きは、コード違反の対象とする。
※コード違反は、1回目は警告、2回目は失点、3回目以降は失ゲーム。
⑦ポイントが終了してから妨害を指摘しても、回数に計上しない。

その他の妨害としては、ゲームの遅延、コーチング、ボールや器具にあたる、スポーツマンシップに反する行為など。

[7] スコアがわからなくなった

①双方合意できるスコアまで、さかのぼる。
②それ以降で同意できるポイントを加算する。
③合意できなかったポイントは取り消す。
④再開するときのエンドとサーバーは合意されたスコアに準ずる。
⑤ゲームスコアも同様に処理する。

[8] トラブル

次の場合、観客に依頼するか相手に通告の上、レフェリー、ロ―ピングアンパイアに申し出る。

①トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時。
②相手の言動やコール、フットフォールトなどに疑問、不服がある時。
③プレーヤー同士で解決できないトラブルがおこった時。

[9] 筋ケイレン

ロービングアンパイヤ、レフェリーの判断で次のチェンジエンドまでのゲームを失うことで、90秒間に自己処置できる。

[10]ゲームセット

双方勝敗を確認の上、握手し、それをもって試合終了とする。

[11] ノーアドのゲームのデュースのアナウンス「40オール」は、20年くらい前に止されていて現在の規則にそぐわないため、決して使わないで下さい。
「デュース」のあとに「どちらにしますか」でいいです。　特に記載のないものは、JTAテニスルールブックに準ずる。）